

平成 30 年度 利用適正化計画改定実験の実施と今後の予定

1. 経過

- 第 36 回知床五湖の利用のあり方協議会（平成 28 年度）により、知床五湖地上遊歩道の利用を前期（ヒグマ活動期）、後期（植生保護期）の 2 期に整理する方向で利用改定実験を実施することを確認。
- 平成 29 年度は春期（開園～5 月 9 日）、秋期（10 月 21 日～閉園）の期間を対象に実験を実施。
- 第 37 回協議会で、平成 29 年度の実施結果が報告され、3 カ年を目安に改定実験を継続して実施することを確認。

2. 平成 30 年度 利用適正化実験の考え方

- 平成 30 年度は、社会実験の 2 カ年目と位置づけ、平成 29 年度実験の枠組みを踏襲しつつ、明らかになった課題に対する検証・評価を行う。
- 改定の意思決定を補うための指標を検討し、実験によりデータを得る。
- 利用適正化計画改定の実務作業は、利用期の整理、閉園時期の取扱い、地上遊歩道再整備等関連する議論と歩調を合わせ、一括して実施する。

《改定判断の目安（案）》

① 利用者の支持（春・秋）

制度改定について利用者から一定の理解・支持が得られること。利用調整地区制度導入時の調査結果等を参考に、同程度の支持水準を目安とする。

② 集客・引率者の技術（春）

登録引率者の半数以上が実験に参加し、一定の集客を実現すること。積雪期に必要な引率技術を把握し、制度等に反映できること。

③ 安全性と環境保全（春・秋）

積雪期の利用による事故やヒグマとの危険性を伴う遭遇に対する安全性が担保されていること。植生や遊歩道施設への明らかな劣化や損傷が発生しないこと。

④ 経済性（春・秋）

認定手続き、レクチャー、総合案内等の運用コストに妥当性があり、継続可能なこと。

3. 春期実験実施要領（骨子）

植生保護期（春）の期間において、ヒグマ活動期の運用をシミュレーションする。今年度は、より広範な周知広報による利用ニーズの検証や積雪への対応等に力点を置いた実験を実施する。

実施期間 平成30年4月25日（水）～5月9日（水）（15日間）

対象コース 大ループコース

*小ループコースについては、通常運用を想定し、対象としない。

実験の検証方法

- モニタリング調査（①定時気象観測 ②積雪深調査 ③自動撮影カメラによる定点撮影 ④歩道・植生状況調査）
- 意識調査（実験ツアーの参加者および非参加者を対象）

周知広報

実験の実施、および実験参加者の募集等の周知広報のため、モニターツアー参加者募集のチラシ等を作成し、知床五湖 web サイトや観光施設、案内所等へ告知、配布を行う。

実施スケジュール

- 2月14日～23日 協力引率者の募集 **24名の応募あり**
- 2月28日 実験協力引率者の確定、通知 **24名の参加を通知**
- 3月1日 実験ツアーの予約開始 **3/1時点で30ツアー207名の予約。**
- 4月12日、13日 実験実施説明会
- 4月20日～ 現地見および準備期間
- 4月25日～5月9日 実験実施期間
- 6月14日、15日 意見交換会

4. 秋期実験実施要領（骨子）

自由利用期の期間において、ルール周知やヒグマ対策の情報提供を行うために、植生保護期の運用に準じたレクチャー等を実施し、任意での受講を求める。今年度は、より現実的な運用の可能性や、外国人利用者への対応等に力点を置いた実験を実施する。

実験期間 平成30年10月21日（日）～11月8日（木）（19日間）

対象コース 大ループコース及び小ループコース

実験の検証方法

- レクチャーの実施時間、実施回数、受講/非受講者数、受講者の属性等について記録。
- 利用者の反応や意見、人員配置等をレクチャー実施等記録用紙にとりまとめる。
- ヒグマ出没状況等については、従来通り目撃アンケートおよび対応記録により状況を把握する。